

アマダ先生はインドネシアでも変わらずアマダ先生のままだった！？

村上 文伸

3月25,26日にインドネシアのジャカルタで Jakarta Neurology Exhibition Workshop and Symposium (Jak-NEWS) という学会が開催され、宇川教授はもちろんですが、幸い村上にもスピーカーとして声をかけていただき、参加してきました。福島にいらっしゃる時間よりも出張で飛び回っていることの方が多いう川先生は何度もインドネシアにいらしたことがあります。村上が大学の卒業旅行で友人たちと一緒にバリ島に行って以来、およそ15年ぶり、二回目です。ジャカルタは今回が初めてでした。羽田空港を10時過ぎに出発するフライトだったので、当日自宅からでは間に合わないと思い、蒲田にあるカプセルホテルで前泊しました。研修医や大学院のころはカプセルホテルに好んで泊まっていたのですが、最近使っていなかったもので、今回はこれまた久しぶりでした。大きな共同風呂があったり、広い休憩室があったりと非常に快適で、見知らぬ宿泊客と一緒に日本対UAEのサッカーの試合を休憩室にある大きなテレビで観戦できました。

24日の夕方にジャカルタのスカルノ国際空港に到着しました。飛行機から降りたとたん、もわ〜とした生暖かい空気に包まれ、常夏の東南アジアに来たんだなあ実感しました。空港にはアマダ先生やウィヌ先生の後輩にあたるレジデントが迎えに来てくれて学会会場のホテルまで送ってもらいました。ホテルについて少し休むと Faculty dinner に呼ばれて、行ってみると今回のスピーカーの先生方と学会を主催側の先生方がいらして食事をしていました。日本からは我々以外に、国立精神神経センターの西野一三先生もいらしてました。西野先生はなんでも1週間前からバンコクで仕事をしてそこからいらしたとか。ジャカルタに来られて大学病院でウィヌ先生と筋生検をしたとか。翌早朝にも筋生検をして、11時からの講演をされてその日の夜には日本に帰るとか。とまあ凡人では考えられないような超人的スケジュールで動かされていました。「病院の僕の秘書がなかなか僕と連絡取れなくて困るみたいなんだよなあ」と、わが医局でもよく耳にするフレーズを笑顔で話してくださいました。

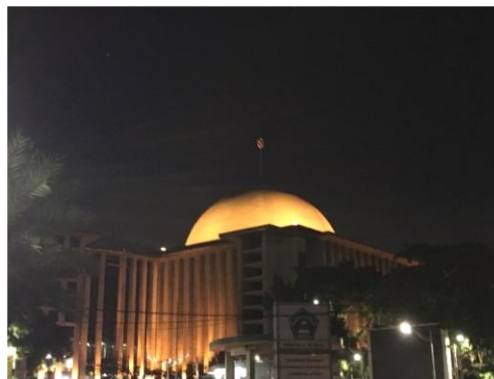


25日からシンポジウムが始まりました。主にはインドネシア人を対象とした学会ですので、インドネシア人が話すときはインドネシア語で、我々は英語です。持ち時間は20分な

のですが、インドネシア時間というか喋りたい人種なのか、どのスピーカーもだいたい5分くらいオーバーします。僕のセッションが始まるまでに既に40分のオーバーでした。そのくせ僕の番になって、座長に紹介してもらった最後に「時間がずれ込んでいるので15分でお願いします」と、突然の意味不明なお願いです。こちらは20分で話す用意をしていたので直前になって5分短縮するのは不可能です。それでも少々早口に話したかもしれないのはバカ正直な日本人の気性なのでしょう。



初日の発表が終わってからウィヌ先生と近くにあるイスラム教のインドネシアで最も大きいモスクとカトリック教の大聖堂に行ってきました。なんと道を挟んで隣接していたのです。世界はキリスト教とイスラム教（のごく一部）とがいがみ合ってるというのに、ここはなんと平穏なのでしょう！ちょうどムスリムのお祈りの時間だったので、信者が集まってお祈りしているところを初めて見ることができました。



同日夕方に宇川先生も到着されたので、一緒に夜のパーティーに参加しました。参加者との懇親会だと思いきや、実は同門会でした。アマンダ先生やウィヌ先生の病院の神経内科医のOBが集まり、再会を楽しむのが目的でした。100人くらいはいましたが、学会に参加した人数に比べると少ないはずですが。会場のコンセプトは80年代のディスコを意識して、アマンダ先生はひとり頭にタイを巻いて上機嫌です。僕には飲み会の二次会で頭にネクタイを巻いた80年代の酔っ払いサラリーマンがダブりました。またアマンダ先生が司会者となってOBの先生方を次々と中央の壇上に集めて、腹囲を測らせ、一番大きい人と小さい人がチャンピオンになるという、わが医局はおろか、日本では飲み会の余興でもしないようなゲー

ムを展開していました。まさにアマンダ先生の独壇場です。彼女のキャラの影響力は絶大で、福島でもそうですが、彼女がいるとインドネシア人もみんな楽しくなるようです。我々も少々羽目を外してコスプレしちゃいました。



26日は昼過ぎから宇川先生のご講演がありました。これまたすでに40分以上の遅れです。先生は少々苛立ち気味で、講演のはじめに皮肉を言ってやろうかと言っておられましたが、さすがは教授です、気持ちをグッとこらえられて、他のスピーカーにこれでもかと言わんばかりにご自身の講演を20分きっかりに終えられました。無言の主張、見事の一言です。でもインドネシア人に届いているかどうかはわかりません。その後、村上が参加したシンポジウムがあり、大取にPlenary Lectureとして宇川先生の2回目のご講演がありました。何と座長の大役をウィヌ先生がされました。終わった後にウィヌ先生に労いの言葉をかけに行くと、「実は座長が決まっていなかったの、急遽やることになった」とのことでした。何という粋な計らいでしょう。その後、会は無事に閉幕しました。



会が終わって自分の部屋に帰り、テレビをつけると偶然にもNHKが映ったので稀勢の里の春場所優勝を見届けました。その後、アマンダ先生がご両親、以前に東大二検に留学しておられたフィットリー先生と旦那さんと呼んで、宇川先生と村上を夕食会に招待してくれました。ジャカルタの中心街まで出て45階の高層ビルの頂上にあるレストランで食事をしました。アマンダ先生は我々に現地のジャワ料理を食べてもらいたいと思い、予約されたのですが、行ってみるとそんなお店がどこにも見当たりません。あるのはなぜか日本料理のお店です。どうやら電話予約する際にJavaneseとJapaneseとを素で聞き間違えたようです。

これまた粋な計らいです。「素」ほど面白いことはありません。食事や飲み物が以外にも美味しくて、宇川先生も村上も大満足でした。またわざわざいらして下さったアマダ先生のお父さんもお母さんも面白くて気さくな方々で、アマダ先生のキャラのルーツが確認できました。



翌朝の 6:15 発のフライトに間に合うために午前 3 時半にホテルのロビーに集合して、4 人で日本に帰ってきました。インドネシア料理が続いたので村上は少々お腹を壊してしまいましたが、アマダ先生とウィヌ先生が神経内科医として活躍しておられるジャカルタとその神経内科事情を垣間見ることができ、おまけにアマダ先生のご両親とも会えてとても充実した出張になりました。この日誌は帰りの新幹線の中で書いてます。もうすぐ郡山かな。気温 30 度の常夏から 0 度の福島への移動は身に堪えます。明日の朝起きられるか、ちょっと心配。。。宇川先生、お疲れ様でした。アマダ先生、ウィヌ先生、Terima Kasih !